



横根高原の巨大太陽光発電所建設に反対する — 運動の、さらなる強化、拡大を —

先日行われた「横根高原の自然を守る日光市民の会」(以下「日光市民の会」と略)によるメガソーラー建設に反対する署名活動に際しては、当会のネットワークを通して多くの会員、購読者等の皆さんには多大なご協力をたまわった。

新聞報道等でご承知かと思うが、「日光の市民の会」は5月17日、市議会に建設差し止めを求める陳情書に6,931名分(第2次集約分を入れると10,788名分)の署名を添えて提出することができた。

これを受けて日光市議会は、この陳情を賛成多数で採択し、県に対して「再生可能エネルギー発電施設導入に関するガイドライン策定を求める意見書」を提出、文中で横根高原の太陽光発電施設建設計画に対して反対の意志を明確に示してくれた。少し遅くなってしまったが、署名活動のお礼とともに、横根の問題に関する最近の動きや太陽光発電の問題点などについて少し報告しておきたい。

市議会側の、こうした動きと並行して、日光市は太陽光発電に関する市独自の規制条例の制定を目指していたが、このほどその原案がまとまり、8月17日～9月6日までの20日間、パブリック・コメントが実施されたばかりである。私自身も、これに意見を提出したし、こうした手法自体に異を唱えるものではないが、今回の実施をどれだけの方が承知していたかと考えると、期間の問題や横文字の制度名など、いろいろ問題を含んでいるような気がする。しかし紙面の関係もあり、ここではこの件は省略する。

また、基本計画が提出されている鹿沼市でも8月末、再生可能エネルギー発電設備の設置に関する許可制度を盛り込んだ条例案が市議会9月定例会に提出された。市側は横根のメガソーラーに関しては、既に事前手続きが行われており、この条例での規制は難しいが、事業者にはこの条例に基づいた配慮を求めていくとのことである。(毎日2017/8/29日付)

今回の横根のメガソーラー計画(鹿沼市に提出されたもの)は、署名の際の説明文にも記されていたように、事業面積106.93ha(東京ドーム約23個分)、太陽光パネル167,222枚、発電容量46,564kwという大規模なもので、なかなか実感を以て感じられない。

現地を見ていない方でもインターネットを見ることができる方は「横根メガソーラー」で検索すれば、「日光の市民の会」の呼びかけ人の一人でもある、「たくきよしみつ」さんのブログなどがあり、そうしたものを見ると航空写真にソーラーパネルを組み込んだ合成写真なども掲載されていて、一目でその規模を確認できる。

この方の「のぼみ～日記 from Nikko 2017」というブログには、このほか今年4月に現地で撮った写真も多数掲載されている。これらの写真は樹々に未だ葉がついていない時期のものなので、かえって現地の状態がわかりやすい。早春の乾燥した時期にもかかわらず樹々の下を湧水が流れていたりするのが良くわかる。お勧めである。

ただし、事業主側(外資系のカナディアン・ソーラー・プロジェクト(株)、子会社:CS栃木鹿沼合同会社)は本年3月、日光市都市計画課を訪れ、「事業面積を鹿沼70ha:日光30ha計画の敷地から鹿沼市側の割合を減らし、その分を日光市側に30ha増やすことを検討している」旨を伝えているとの事なので、計画の位置は厳密には少し違ってくるが、自然環境の状態や発電所の規模を確認するには充分役に立つと思う。

最近の「消費者レポート」(2017/6/20 No1598)の現地調査記事によると、メガソーラー(10,000kwを超える太陽光発電施設)は全国では3,613か所にも及ぶという。この記事には全国の上位10か所の発電所が掲載されているが、その順位に当てはめると横根

目次:

横根高原の巨大太陽光発電所建設に反対する	1
庭のキノコの放射能	2
ゆったりウォーク 長畑編	3 4
活動報告	4

お知らせ

定例会 毎月・第4金曜日

午後1時～2時
参加希望の方は会場・日時をお問い合わせください。

<http://nikko.us/17/057.html>



に計画されている施設が、まともに作られてしまったら9位に入ることになる。変更後の新たな計画は提出されていないが、いずれは日光市にも提出されると考えておいた方がよいだろう。楽観は禁物である。

この場合、計画の敷地は足尾側水源地部分が増えることから、これまで以上に渡良瀬川流域等の自然環境への影響が懸念されることになる。直ちに危惧されるのは、建設計画区域斜面の都沢を支流とする、内の籠川を水源とした水道水を使用する足尾地区の450世帯の方々への影響である。

本文に掲載した写真は、「のぼみ〜日記」に掲載されている、奈良県の太陽光発電施設の写真からの転載である。

かつて横根の地は勝道上人の入山以来、霊山として崇められてきた。その地の粕尾峠からの入り口部分の100haを超える広大な広葉樹林帯を裸地として草一本生えさせなくしてしまおうというこの計画が、直ちにこの写真のようになるなどというつもりは勿論ない。けれども現在の気候変動の進行の中

で、50年に一度の大雨が、いつ襲来してもおかしくなくなっている昨今である。思いもよらぬ規模の土砂災害等も懸念しなければならないのではなかろうか。私たちは象徴的な、この写真を他山の石として直視しておく必要があるようにおもわれる。

太陽光発電そのものが悪いとはいわないが、大規模なメガソーラーは日本中の多くの場所で自然環境への深刻な影響をもたらしつつあると聞く。日本のように国土が狭く、山の多い所には、メガソーラーという発想そのものが似合わないのではなかろうか。

「日光市民の会」はこの「狂気の沙汰」ともいべき計画に対して断固反対の意思を示すため計画地近くの道路沿いなどに立て看板を建てつつある。またこれからの運動をさらに強化していくために、「呼びかけ人」をもっと増やしていく方針である。この計画を何とかストップさせるために、有志の方々には、さらなるご協力をお願いしたい。（文責・森）

庭のキノコの放射能

庭の土を採取して天日で乾かしてから放射性セシウムの濃度を測ると、1キログラムあたり500から1000ベクレルの数値を示す。今でも放射能は地表にへばりついているのだ。この値が「100ベクレル」に下がるにはあと100年の時間が必要だ。（以下、キログラムあたりの放射性セシウム濃度を「ベクレル」と表記する）

庭にブルーベリーの木がある。毎年、実ができるのを楽しみにしていたのに、原発事故から放射能が心配になってしまった。ブルーベリー果実の放射能は2012年は24ベクレル（日光市放射能測定）、2014年は15ベクレルあった。2014年までは収穫せず放置したので野鳥が食べてしまった。昨年、今年と放射能量は減る傾向にあり、手持ちの測定器の検出限界10ベクレルを下回っている。ただし、放射線エネルギーのグラフ表示をよく見ると、ほんのわずかだけれど放射性セシウムの信号を捉えている。気にせず食べることでできるレベルだと判断して、適当に食べているが、原発事故を知らない野鳥の被ばくがときどき心配になる。

夏になり、栗の木の陰にある5、6メートルの高さのナラが枯れてしまった。根元を見るとキノコが生えている。もしかすると「ナラタケ」というのか（写真下：ご存知の方は教えてください）、採取して放射能を測定してみたら、検出限界以下。少量だったので「20ベクレルは超えない」くらいしか言えないが、キノコにしては低い値だと思った。過去の写真



ハタケシメジ（らしい…）

を探してみたら、この木は6年前には高さ50センチメートルくらいの小さな木だったことがわかった。木に付着した放射能量は、その時点での表面積に比例するだろう。このナラの木に付いた放射性セシウムは他の木に比べて少なく、そこから栄養を取って成長したキノコの放射能も少ないと推定できる。寒くなる頃、この枯れたナラを切り倒し、木質に含まれる放射能濃度を調べてみようと思う。

秋はキノコの季節。地面から「ハタケシメジ」が生えてきた。こちら少量（73g）だが参考のため測定してみた。およそ60ベクレルの放射性セシウムを含んでいた。凶鑑には「土に埋もれた枯れ木から栄養をとる」キノコと書かれている。おもったより低い値なのは、土壌に含まれる放射性セシウムは土の成分に付着し、キノコにとって吸収しにくい状態になっているからではないだろうか。枯れたナラのすぐそばに大きく枝を広げている栗の木がある。毎年実が落ちる。今年も30ベクレルの濃度。こちらは樹皮に付着した放射能が栗の実に移動しているのだろうか。

日光市のホームページには『日光市産の農林水産物のうち、基準値を超過したのは「野生のきのこ」や「野生の山菜類」、「シカ肉などの野生生物」でした。これらは国や県から出荷制限・自粛の指示が出ています』と書かれている。最近、市の北部で採取したというチタケが持ち込まれた。測定したところ、およそ1100ベクレル（少量（130g）のため参考値）という高濃度の放射能が検出された。

放射性セシウムは、これから長い年月、私たちの周りで有害なベータ線、ガンマ線を放出し続ける。どれくらいの量かは測定しないとわからない。根拠のない「これくらい大丈夫」には注意が必要だと思う。（手塚）

枯れたナラの根元に生えたキノコ



水と緑の出会い地へ

ゆったりウォーク 長畑編 4月29日



アミカのふるさと

毎年春と秋の2回、当会では「ゆったりウォーク」と「川むしたんけん隊」を行っています。その「川むしたんけん隊」は、NPO法人「なんとなくのにわ」と共同で実施している活動ですが、昨年春、長畑地区を流れる西沢川の上流で子供達と行ったところ、たいへん珍しい水生昆虫が見つかりました。この虫は「アミカ」(網蚊)の幼虫で、水質汚濁にきわめて敏感です。山から流れ下ってくる水の温度が一年を通して低温であり、兩岸が林におおわれた、岩の多い急流でなければ生きていけません。水質階級Ⅰに属する指標生物になっており、岩にへばりついて表面の苔などを食べて幼虫時代を過ごします。そして成虫になると空へ飛び立っていきます。

このアミカを育てている西沢川の自然や源にあたる鶏鳴山、そして麓の長畑地区をゆっくりのんびり歩こうと企画したのが大人の遠足、「ゆったりウォーク」です。4月29日、定員オーバーの27名で歩いてきました。

縄文時代から人の暮らしが

長畑は旧今市市の西部に位置する地域です。鶏鳴山を始め周辺の山が産み出す水は西沢・東沢として長畑川となり、やがてそれは行川に合流し、鹿沼市の黒川となっていきます。縄文時代の遺跡が発見された地でもあり、勝道上人ゆかりの西沢神社や上人の母にまつわる木乃峰千手観音堂、当会会員であった長田氏が保管されていた古文書(平成8年2月にそのコピーを塚崎が見せてもらいました)もあり、私達が想像する以上に長畑ではずいぶん昔から人々の暮らしが始まっていたと言えると思います。

その古文書では鶏鳴山(御永山)の由来として平将門伝説が記されています。将門が反乱で首をはねられたらその首が空中高く舞い上がり、御永山の方向に飛んでいったというのです。その地では鶏が高らかに声をあげ、空中に飛び上がって将門の首を蹴ったと思いきや、逆に将門の首に足を食いちぎられてしまったそうです。鶏が鳴いた山の謂れは少々恐ろしいものですが、千年以上も前の東国の素朴な故事でもありましょう。

まさに桃源郷

歩いたコースを辿ります。西沢と東沢を分ける稜線を登っていくと長畑中居集落を見渡せる場所に出ます。西沢川に向かってなだれている畑では春作の準備がすでに整い、川に沿って登る道が集落のはずれまで続いている

ます。遠くで鳴く犬の声、人々の暮らしが伝わってくる丘です。やわらかな日差し、やさしく頬を撫でていく風にうっとりしながら、ずっとここに座っていたい思いにかられました。

西沢川と出会う場所に下りてくると薬師堂がありました。この日はお祭り日にあたり、村の人達大勢でお堂や周辺を清掃していました。目を治してくれる仏様だそうです。ここから鶏鳴山への林道となり、川に沿って広葉樹のやさしい葉に包まれながら登山口近くまで歩きました。途中、安政5年植樹と記された二宮林と可愛い祠、元禄年間に行われた東照宮改修工事の際に切り出された御影石にちなむ石畑橋・切石橋などが残っています。遠雷が聞こえてきたので引き返し、昼食の場所へ。普段は入れないゴルフ場のグリーンです。大きな空を仰ぎ、身体の中まできれいにしてくれる風を受けながらのお弁当はとても気持ちのよいものでした。これは地元富田一吉氏のご厚意により実現できたことです。誌面を借りてお礼申し上げます。

怪しい空模様。雨に打たれる前にと予定を早め、中居集落を通過。ここでは立派な長屋門を持つお宅が3軒。格式を持つ豪農の造りです。集落の昔を偲び、集合地に戻りました。

優しい会話が生まれます

「ゆったりウォーク」は観光地には行きません。そこに暮らす人たちの息吹が伝わってくる場所を選んでいきます。今回参加してくれた日光市と宇都宮市の小学生二人。初対面なのに会話が弾んでいたようでした。私達OG・OBも歩きながらの会話を楽しみました。今回、雷雨の為ゆっくり交流できず残念でしたが、次は10月21日(土)、日光市の南東部、小林地区に出向きます。知っているようで知らない地域。古山山に登り、水とのかかわりも辿りながら歩きたいと思っています。皆さんの参加を待っています。(塚崎)

「ゆったりウォーク」感想

春の「ゆったりウォーク・長畑編」に参加した。午前9時30分、西沢川が長畑川に合流するあたり、長畑川堤防を出発。勝道上人縁の西沢神社や木の峰千手観音堂に立ち寄り、中居の集落では重厚な長屋門の、歴史を感じさせる佇まいに感激。信仰と伝説の山、鶏鳴山の森が育む西沢川の故郷をゆったり辿る、心安らぐ春の一日だった。(森田)

【長畑の地図・写真は次ページに掲載しました】



お知らせ：この秋の「ゆったりウォーク」は...

小林編 **刈り入れ後の里めぐり**

10月21日(土) 午前9時：日光市小林公民館集合

活動報告

- 3月22日 (水) だいや川通信 第42号発行
- 4月29日 (土) ゆったりウォーク (長畑)
- 5月26日 (金) 定例会
- 5月27日 (土) 川むしたんけん隊(雨天中止)
- 7月28日 (金) 定例会
- 8月25日 (金) 定例会

川むしたんけん隊 高畑運動広場集合

9月30日 (土) 午前9時30分
 参加申込・お問い合わせ:090-3227-7079 (NPO法人なんとなくのになわ)



郵便振替口座 00140-4-535550

連絡先

〒321-1102 日光市板橋1732-1 森方
 今市の水を守る市民の会
 0288-27-2183 (8時~17時:森)
 0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)
<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

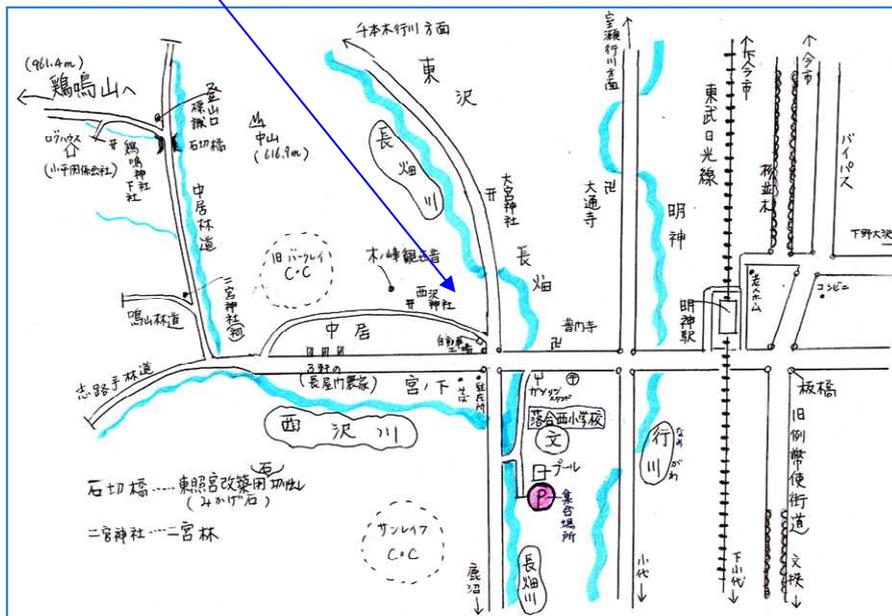
もう少しで、西沢神社
 左には電気柵あり。



さあ、出発！



西沢神社・日光市指定文化財です



ゆったりウォーク 長畑編 散歩地図
 ゆったり、のんびり、7キロメートルを歩きました。

中居林道でのスナップ



編集後記

雨の日が多く星を見るチャンスが少ない夏でした。数週前の午後、青空に気づき、望遠鏡を取り出して、数人の子もたちと星空見物をしました■ネットで「今日の星空」を検索。「夏の大三角形」を構成する「はくちょう、こと、わし」などの星座を確認し、南に目を転じ、さそり座の赤い一等星、アンタレスの左上に土星がいることをチェック。望遠鏡を向け、久しぶりに土星の輪を見ることができました■その土星を周回し、画像や観測データを十数年にわたって送り続けてきた「カッシーニ」が、ついに運用を停止したそうです。1997年に打ち上げられた探査衛星です。もし制御を失い土星の衛星に墜落したら、その星を地球の微生物で汚染してしまう可能性があります。そんな事態を避けるため土星に突入させ、大気圏で燃え尽きることを選んだとのこと。ちょっと切ない気もしますが、生物が潜むかもしれない衛星環境を守るための最善の方法だったので■美しい惑星の写真を私たちに届け、土星の輪を通過するなど冒険的なミッションをたくさんこなしてきた探査機。最後に送ってきた映像や研究者の熱いコメントがネットにたくさん掲載されています。(T)